

熊本市政令指定都市

移行10周年

10th
KUMAMOTO
CITY

2012-2022



政令指定都市、この10年の歩み

2012年4月の政令指定都市移行から、10年を迎えました。子育て・教育・都市計画などに関する権限や財源が多く移譲され、自分たちの「まち」のことは自分たちで決定できるようになりました。この間の主なできごとを振り返ってみましょう。

2012年

平成24年

熊本市政令指定都市移行

全国で20番目の政令指定都市が誕生。
「区ごとのまちづくり」が始まった。



政令指定都市移行
カウントダウンイベント

2013年

平成25年

- 仏・エクサンプロヴァンス市と交流都市協定締結
- 国連“生命の水”最優秀賞受賞
熊本地域の広域的な地下水保全の取組が優れた水管理の事例として日本で初めて受賞した。
- 中国・蘇州高新区と交流都市協定締結
- 台湾・高雄市と国際交流促進覚書締結
- 第33回全国豊かな海づくり大会に伴う天皇皇后両陛下下行幸啓



仏・エクサンプロヴァンス市との
交流都市協定調印式



両陛下下行幸啓

2014年

平成26年

- 新型超低床市電（COCORO）の運行開始
- 大西市長着任
幸山政史前市長から大西一史市長へバトンタッチ



COCORO



幸山前市長と大西市長

2015年

平成27年

- 桜町再開発事業が開始
県民百貨店、県内唯一の地下街「センタープラザ」、交通センターが長年の歴史に幕を下ろした。
- 海フェスタくまもと開催



桜町・花畑周辺地区



海フェスタくまもと

2016年

平成28年

- 平成28年熊本地震発生
4月14日午後9時26分、そして16日午前1時25分。観測史上初となる2度の震度7の地震が甚大な被害をもたらした。
- 近隣市町村と「熊本連携中枢都市圏構想」を進めていくための連携協約を締結



熊本地震後の熊本城

2017年

平成29年

- まちづくりセンター誕生
各区にまちづくりセンターが誕生。まちづくり支援専任の「地域担当職員」を配置し、地域に根差した行政サービスの実現に向けた取組を開始した。
- 台湾・高雄市と友好交流都市協定締結



富合まちづくりセンター

2018年

平成30年

- 熊本市動植物園・熊本博物館の全面再開
12月、熊本地震で被災した動植物園と熊本博物館が相次いで全面再開を果たし、多くの来場者でにぎわった。



熊本市動植物園



リニューアルした熊本博物館

2019年

令和元年

- 熊本城ホール、熊本桜町バスターミナル開業
- 新しい熊本市市民病院の開院
- 熊本城大天守外観復旧
熊本地震により被災した熊本城の特別公開が開始された。
- ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会の開催



熊本城 特別公開



女子ハンドボール世界選手権大会

2020年

令和2年

- 新型コロナウイルス感染症の流行
新型コロナウイルス感染症が全国的に流行。熊本市でも感染者が増加し、私たちの日常を大きく変えた。
- 熊本城特別見学通路開通



熊本城 特別見学通路

2021年

令和3年

- 熊本駅白川口駅前広場が完成
- 熊本城天守閣内部公開開始
- 花畑広場全面供用開始
新しい広場と公園が完成し、市民が集い憩える空間が誕生した。



熊本駅白川口駅前広場



花畑広場

2022年

令和4年

- 第38回全国都市緑化くまもとフェア開催
- 第4回アジア・太平洋水サミット開催
コロナ禍からの回復における水の重要性を踏まえ、水の持続性についての取組の強化により「質の高い社会」の実現を目指す「熊本宣言」が採択された。



第38回全国都市緑化くまもとフェア



第4回アジア・太平洋水サミット

写真提供：日本水フォーラム

10周年の詳細は
こちらから



そして未来へ、ともに

熊本市は令和4年4月1日、政令指定都市移行10周年を迎えました。

本市は、明治22年、人口約4万3千人の都市として誕生して以来、130年を超える歴史の中で、戦災や水害など幾多の苦難を克服し、先人たちのたゆまぬ努力により、現在の豊かな自然と歴史文化、都市機能が調和した、魅力と活力あるまちが築かれてまいりました。

近年は、平成3年の北部町、河内町、飽田町、天明町、平成20年の富合町、平成22年の城南町、植木町との合併を経て、人口73万を擁する都市となり、平成24年4月、悲願であった政令指定都市へ移行しました。

この10年を振り返りますと、平成24年7月九州北部豪雨や平成28年熊本地震など、度重なる災害に見舞われました。厳しい経験でしたが、国内外からの温かいご支援と、市民の皆様の懸命な努力により、復旧・復興への歩みを着実に進めてまいりました。

また、拡充された権限や財源を活用し、区役所を中心とした住民サービスの向上や、自主自立のまちづくりを進め、熊本城ホールや花畑広場、熊本駅前広場の整備など、大都市にふさわしい都市基盤の整備も進みました。

そして今、新型コロナウイルス感染症のまん延に加え、国際情勢の不安定化など、社会経済情勢が目まぐるしく変化する中、人口減少社会や少子高齢化、地球温暖化への対応など、持続可能な社会の実現に向けた地域課題への対応も求められています。

政令指定都市移行10周年を契機とし、まちづくりの基本理念である「地域主義」を更に徹底し、市民の皆様とともに様々な地域課題の解決を図っていくことで、市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」を実現し、次の世代に引き継いでまいります。